

中国金融当局三トップの交代と資本市場改革の行方¹

関根 栄一

■ 要 約 ■

1. 2011年10月29日、中国の金融当局の三トップ（三会）が交代し、中国銀行業監督管理委員会（銀監会）には尚福林氏（中国証券監督管理委員会前主席）、中国証券監督管理委員会（証監会）には郭樹清氏（中国建設銀行前会長）、中国保険監督管理委員会（保監会）には項俊波氏（中国農業銀行前会長）がそれぞれ新主席に就任した。
2. このタイミングでの中国金融当局のトップの交代の背景には、金融当局トップ・四大国有商業銀行会長ポストのローテーションや、2012年秋の第18回党大会での指導部の交代がある。今回の三トップの交代の特徴は、昇格と論功行賞である。
3. 今回交代した三トップのうち、郭氏の証監会の新主席の就任が注目される。郭氏は、「学者肌の金融官僚」とも称され、朱鎔基総理の経済ブレーンを務めたこともある。三会ともに、課題によっては短期的な成果を出す必要がある。資本市場では、国際板（外国企業の人民元建て株式（A株）発行市場）の開設など、郭時代の到来とともにどのような取組みが行なわれるのか注目される。

I. 中国金融当局三トップの交代

2011年10月29日、土曜日ではあるものの、中国の国営通信社・新華社は、中国の金融当局のトップの交代を報じた。中国銀行業監督管理委員会（銀監会、CBRC）では、劉明康主席が退任し、中国証券監督管理委員会（証監会、CSRC）の尚福林氏（Shang Fulin、1951年11月生、60歳）が新主席に就任した。証監会では、中国建設銀行の郭樹清会長（Guo Shuqing、1956年8月生、55歳）が新主席に就任した。中国保険監督管理委員会（保監会、CIRC）では、呉定富主席が退任し、中国農業銀行の項俊波会長（Xiang Junbo、1957年1月生、54歳）が新主席に就任した。

中国では、銀行、証券、保険といった業態別に金融行政が行なわれており、これら「三会」のトップの交代は、今後の金融行政の行方を占うものとして注目されている（図表）。

¹ 本稿は、公益財団法人野村財団の許諾を得て、『季刊中国資本市場研究』2012Vol.5-4より転載している。

図表 各監督管理委員会の新主席の顔ぶれ

中国銀行業監督管理委員会(銀監会、CBRC)		
名前	尚福林	
英文表記	Shang Fulin	
生年	1951年11月	
出身地	山東省	
最終学歴	金融学博士	
主な職歴	1994年10月～	中国人民銀行総裁補佐、中国人民銀行副総裁 (この間、金融政策、決済業務、国庫管理、金融統計業務を担当)
	2000年2月	中国農業銀行頭取
	2002年12月	中国証券監督管理委員会主席
	1997～2000年、 2002年～現在	中国人民銀行金融政策委員会委員を兼任
党務	2011年10月	中国銀行業監督管理委員会主席
	2002年11月	中国共産党第16回全国代表大会中央候補委員
	2007年10月	中国共産党第17回全国代表大会中央委員

中国保険監督管理委員会(保監会、CIRC)		
名前	項俊波	
英文表記	Xiang Junbo	
生年	1957年1月	
出身地	重慶市	
最終学歴	北京大学法学博士、研究員	
主な職歴	～2002年1月	南京審計学院副院長、国家審計署管理局副局長、国家審計署駐在員 (北京、天津、河北省)を歴任
	2000～2002年	国家審計署人事局長
	2002年2月	国家審計署副審計長(次官級)
	2004年7月	中国人民銀行副総裁 (2005年8月～2007年6月、中国人民銀行上海本部主任を兼任)
	2007年6月	中国農業銀行頭取
	2009年1月	中国農業銀行会長(株式会社化後)
党務	2011年10月	中国保険監督管理委員会主席
	2007年10月	中国共産党第17回全国代表大会中央候補委員

中国証券監督管理委員会(証監会、CSRC)		
名前	郭樹清	
英文表記	Guo Shuqing	
生年	1956年8月	
出身地	内蒙古自治区	
最終学歴	法学博士	
主な職歴	1988年9月	国家計画委員会経済研究センター総合チーム副チーム長(副局長級)
	1993年4月	国家経済体制改革委員会総合計画・試点局長、マクロ調整コントロール 体制局長
	1996年2月	国家経済体制改革委員会秘書長
	1998年3月	国務院(内閣)経済体制改革弁公室・党委員会副書記(次官級)
	1998年7月	貴州省副省長
	2001年3月	中国人民銀行副総裁、国家外為管理局長を兼務 (2003年12月～2005年3月、中央匯金投資有限責任公司会長を兼任)
	2005年3月	中国建設銀行会長 (中国信達資産管理公司・党委員会書記、中国建銀投資有限責任公司・ 党委員会書記を兼任)
	2011年10月	中国証券監督管理委員会主席
党務	2007年10月	中国共産党第17回全国代表大会中央候補委員
政治機構		第10回全国政治協商会議委員

(出所) 2011年10月31日付金融時報ほかより野村資本市場研究所作成

Ⅱ. 三トップ交代の背景と評価

1. 三トップ交代の背景

但し、このタイミングでの中国金融当局のトップの交代には、少し解説が要る。

第一に、中国人民銀行の総裁・副総裁や三会といった金融当局トップや、中国政府が株主でもある四大国有商業銀行（中国銀行、中国建設銀行、中国工商銀行、中国農業銀行）の会長ポストは、中国共産党中央組織部の承認の下で異動する仕組みとなっている。いわば、金融当局である審判と銀行といった市場参加者である選手が、党主導のローテーションによって定期的に入れ替わる仕組みは、他国・地域と異なるものである。

第二に、このタイミングでの異動は、2012年秋に開催される第18回党大会と連動している。2012年の党大会では、10年に一回の指導部の交代が行われるとともに、行政レベルでも党大会に前後して大幅な人事異動が行なわれる。今回の金融当局のトップ交代もその一環である。

2. 新主席に対する評価

それでは、今回の金融当局トップの交代をどのように評価すればよいのであろうか。

筆者は、第一に、三名とも今回の異動は「昇格」と捉えている。尚氏の銀監会主席就任は横滑りに見えるかもしれないが、間接金融中心の中国では、銀監会の地位は三会の中で最も高い。

第二に、論功行賞を反映した人事と考える。尚氏は、元々は中国人民銀行出身ではあるが、2002年12月に証監会主席に就任後、在任中に株式市場が流通株と非流通株に分断している非流通株問題に目途をつけている（2005年4月より着手）。他には、中小企業板の開設（2004年）や、新株発行制度の改革（2006年）、2008年秋以降深刻化した金融危機が後押しした創業板（新興市場）の開設（2009年）などもある。新証券法の施行（2006年）や、信用取引・株価指数先物取引の解禁（2010年）といった証券インフラの整備や、QDII（適格国内機関投資家）制度の創設（2006年）といったクロスボーダー証券取引の導入も忘れてはならないであろう。

ほかに郭氏は2005年3月に中国建設銀行会長に就任、項氏は2009年1月に中国農業銀行会長に就任し、それぞれ両行の上場に貢献している。また、項氏は、元々は日本の会計検査院に相当する国家審計署の出身であるが、中国人民銀行が設立した上海本部の初代トップに2005年8月に就任し、中央銀行の上海での国際業務やリサーチ業務の基礎を固め、上海の国際金融センター化に貢献している。

Ⅲ. 証監会・郭主席の手腕への期待

1. ニックネームは「学者肌の金融官僚」

以上の中でも筆者が特に注目しているのが、郭氏の証監会主席の就任である。

郭氏の経歴を見ると、文化大革命終了後に南開大学、中国社会科学院で学位を修め、同院を卒業後は、1988年9月から国家計画委員会（現・国家発展改革委員会）の副局長ポストに、1993年4月からは国家経済体制改革委員会（当時）の局長級ポストに任命されている。1998年3月からは国務院（内閣）経済体制改革弁公室（当時）の次官級ポストを務め、1998年7月からは内陸部の貧困地区の貴州省副省長に任命され、地方の現場での経験を積んでいる。この間、1991年から副総理に、1992年から政治局常務委員に、1998年から総理に就任した朱鎔基氏の経済ブレーンとして活躍している。同時期の朱氏の経済ブレーンとしては、現時点でのポストでは、中国政府系ファンド・中国投資有限責任公司（CIC）の楼継偉会長や、中国最大手投資銀行・中国国際金融（CICC）の李劍閣会長が有名である。2001年3月からは北京に戻り中国人民銀行副総裁兼国家外為管理局長を中国建設銀行の会長就任まで続けている。

郭氏は、長年にわたりマクロ経済と物価改革に携わった経歴を持つことから、「学者肌の金融官僚」とも称されている。研究業績としては、この20年間に、17冊の経済分野の単著を出版し、300本以上の論文を発表しているとされる。また、1988年と1992年と二度にわたり「孫治方・経済学賞」²と呼ばれる経済分野での国内の最高賞も獲得している。

2. 郭時代のチャレンジ

郭氏は、外国人に対しても、比較的率直に本音の議論をするとも言われている。郭時代の始まりに伴い、理論面のみならず、政策面・実践面でも、中国資本市場の更なる発展に向けた取組みへの期待が当地の市場関係者の間で高まっている。

但し、その前途は、決して全てが楽観視できるものではない。例えば、2011年10月29日付の毎日経済新聞では、郭主席が直面する八つの課題として、①創業板の上場廃止制度の整備、②国際板（外国企業の人民元建て株式（A株）発行市場）の開設、③三板市場（店頭市場）の整備、④IPOへの市場メカニズムの更なる導入、⑤空売り制度の現実的導入、⑥ポスト非流通株改革時代に相応しい関連政策の整備、⑦債券市場の拡大、⑧投資家による訴訟制度の整備を指摘している。これらの制度の改革や整備には、一定の準備期間が必要であろう。

² 孫治方氏（1908年～1983年）は、1949年の新中国建設前から中国経済の発展に尽くした経済学者。孫治方・経済学賞は、1985年から2年に一回、中国の経済学に貢献した個人もしくは組織に授与される国内最高賞。

3. 今後の動き

とは言え、三会の新トップは、課題によっては、短期的にも成果を出す必要にも迫られよう。実際、銀監会の尚主席は、2011年11月7日の現地メディアのインタビューの中で、政策的な誘導によって、商業銀行による零細企業への金融サービス提供を持続的に実施する方針を早速表明している。中国では、温家宝総理が、国慶節の祝日の10月3日・4日に民間セクターかつ中小企業が集中することで有名な浙江省（紹興市、温州市）を訪問し、金融引締めに伴う中小企業の資金調達難の解決の必要性を訴えている。続いて10月24日・25日には天津を訪問し、マクロ経済政策の調整の余地について言及している。銀監会は、2011年6月7日に公布した「商業銀行の小企業向け金融サービスの更なる改善を支援することに関する通知」に続いて、同年10月25日には「商業銀行の小企業向け金融サービスの更なる改善を支援することに関する補充通知」を出して、尚主席就任の前から零細企業向け金融支援に取り組もうとしている。

他に銀行セクターでは、2011年11月3日～4日、フランスのカヌで開催されたG20サミットを通じてグローバルにシステム上重要な銀行（G-SIBs）29行の一つとして認定された中国銀行に対する管理監督や2012年から始まる国内行へのバーゼルⅢ適用への対応³、2011年末を実現の期限とした預貸比率75%への対応が課題として挙げられる。保険セクターについては、保監会は2011年8月3日付で「中国保険業発展第12次5ヵ年規画要綱」を同年8月18日に公表しており、2015年までに、①業界全体の保険料収入3兆元、②一人当たり保険料負担額2,100元、③保険業界の総資産10兆元等を実現することを目標に設定している。項主席も当面、当該要綱の方針に従った運営を行なうこととなる。

資本市場については、発行制度改革、債券市場やPE市場の育成、年金基金の株式運用、先物・金融派生商品の発展、国際板の開設、上場企業のM&A等の八項目を盛り込んだ資本市場をテーマとした「第12次5ヵ年規画」を設定中（証監会研究センター・祁主任、2011年6月17日付中国証券報）との情報もあり、郭主席による前述の八大課題を含めた今後の取組みが注目される。また次は、中国人民銀行の総裁人事も注目される。

³ 中国銀行セクターのバーゼルⅢ対応については、関根栄一「中国版バーゼルⅢの公表と中国銀行セクターへの影響」『季刊中国資本市場研究』2011年夏号を参照。